

<第4510回>

目的地：利尻・礼文（北海道）

担当者：時本

実施日：2024年7月25日（木）～29日（月）

形式：宿舎泊山行

費用：¥118,000.

（内訳）

ANA 大阪～新千歳（往復）	31,010 円	ANA 新千歳～利尻（往復）	17,920 円
大阪空港リムジンバス	1,300 円		（650 円×2）
香深港⇄鴛泊港	2,280 円		（1,140 円×2）
利尻島観光バス	3,500 円	礼文島観光バス	3,300 円
バス（鴛泊港→利尻空港）	380 円		
旅館雪国（1泊 7/25 夕食・7/26 朝食（お弁当））	11,150 円		
（旅館なり田（1泊 7/25 夕食・7/26 朝食（お弁当））	12,750 円）		
旅館雪国（1泊 7/26 夕食・7/27 朝食）	11,150 円		
ペンション群林風（1泊 7/27 夕食・7/28 朝食）	16,500 円		
宿舎香栄丸（1泊 7/28 夕食・7/29 朝食）	11,000 円		
7/25～7/29 各日の昼食	5,000 円		（1,000 円×5 日）
利尻富士町温泉保養施設 利尻富士温泉	500 円		
その他（調整）	3,010 円		

参加者：6名

行程：

7/25 大阪の天気：晴、利尻島の天気：曇り

大阪空港（8:30）＝[ANA]⇒（10:20）新千歳空港（K・N・N・Y・W）

関西空港（9:10）＝[JAL]⇒（11:10）新千歳空港（T）

新千歳空港（12:30）＝[ANA]⇒（13:25）利尻空港[手荷物受取場所で集合]＝[送迎車]⇒宿舎[泊]

（男性は旅館なり田、女性は旅館雪国に分宿）

[男性] 鴛泊市街地を散策、翌日の登山に備えての買い物、
利尻富士温泉にて入浴（宿の送迎）

[女性] ペシ岬散策、鴛泊市街地を散策、翌日の登山に備えての買い物

7/26 天気：晴れ

[起床 3:55]宿舎（4:45）＝[送迎車]⇒（4:55）鴛泊登山口 [208m]（5:00）→（6:58）
第一見晴台 [692m]（7:09）→（8:33）第二見晴台 [1,112m]（8:50）→（9:02）長官山
（八合目） [1,213m]（9:27）→（9:43）避難小屋 [1,233m]（9:52）→（10:50 頃）九合目
[約 1,400m]（10:56）→（12:21）利尻山（北峰） [1,714m]（13:01）→（13:50）九合目
（14:06）→（14:33）避難小屋（14:44）→（14:58）長官山（八合目）（15:10）→
（15:24）第二見晴台（15:29）→（16:27）第一見晴台（16:37）→（18:30）鴛泊登山口
（18:40 頃）＝[送迎車]⇒（18:50 頃）宿舎[泊]（旅館雪国）[シャワー、夕食 19:10
～19:45 頃]

7/27 天気：晴れ

[起床:6:00、朝食 7:00～7:30 頃]宿舎（8:30）～（8:35 頃）鴛泊港フェリーターミ
ナル（9:05）＝[定期観光バス]（姫沼、オタトマリ沼、仙法志御崎公園）⇒（12:15）
鴛泊港フェリーターミナル[昼食]（12:50 頃）

[男性] →(13:20 頃)ペシ岬(13:30 頃)→(14:10 頃)高山植物園(14:25 頃)→
(14:45)宿舎[泊]

[女性] →鴛泊港フェリーターミナル 2F の喫茶店(14:45 頃)→(15:10 頃)宿
舎[泊]

宿舎(ペンション群林風)[夕食 16:45~17:30 頃]

7/28 天気:曇り

[起床:6:00、朝食 7:00~7:30 頃]宿舎(8:30)=[送迎車]⇒(8:40 頃)鴛泊港
(9:20)=[フェリー]⇒(10:05)香深港(10:10 頃)=[送迎車]⇒(10:20 頃)北のカ
ナリアパーク(10:41)→(11:18)元地灯台(11:29)→(11:38)つばめ山(11:46)→
(12:36)桃岩展望台(12:49)→(13:26)香深港フェリーターミナル[昼
食](14:15)=[定期観光バス](澄海(スカイ)岬、スコトン岬)⇒(16:40)香深港フ
ェリーターミナル→(17:00 頃)宿舎[泊](民宿香栄丸)[夕食 18:30~19:15 頃]

7/29 利尻島の天気:曇り、大阪の天気:晴

[起床:6:30、朝食 7:30~8:00 頃]宿舎(9:30)=[送迎車]⇒(9:40 頃)香深港
(10:25)=[フェリー]⇒(11:10)鴛泊港(11:55)=[宗谷バス]⇒(12:11)利尻空港
[解散](14:05)=[ANA]⇒(14:55)新千歳空港

新千歳空港(16:05)=[ANA]⇒(18:15)関西空港(K)

新千歳空港(16:35)=[ANA]⇒(18:25)大阪空港(N・Y)

新千歳空港(17:50)=[ANA]⇒(19:40)大阪空港(N・W)

新千歳空港(16:10)=[JAL]⇒(18:00)大阪空港(T)

感想:

[始めに]

昨年夏、好天の鳥海山に登り、次は更に北にある名峰の利尻山に登りたいと新たな
目標ができたため、今回の利尻・礼文例会を計画しました。せっかく登るのですから、
利尻山の頂上から周囲の海はもちろんのこと、礼文島や北海道本島を俯瞰したいとい
う希望が出てきました。今回、ほぼ快晴のなかでその希望が叶えられるとともに山行
後に続く観光等も充実して、自分自身はもとより、高額な費用と多くの日数をかけて
参加していただいた皆さんにも多分納得していただけたのではないかと思います、ホッと
しています。

利尻・礼文例会は実施日が7月下旬と繁忙期にあたることもあり、航空運賃の安い
うちに予約することが望まれたため、2月に例会案内を作成し3月に募集を開始しま
した。航空券は、格安航空会社やマイレージを使用される方もいらっしゃると思え、
モデルとなる便を示すにとどめ、皆さんそれぞれに予約していただくことにしました。

宿は以前(2012年8月)、Yさんが担当された利尻・礼文例会に参加されたSさんに
利尻島の宿をお尋ねすると、旅館なり田に宿泊し、料理等良い旅館だったと言われま
した。そこで2月に、旅館なり田の雰囲気を確認しつつ、いつ頃予約をしたら良いか
と尋ねるために電話をかけました。ところが、7月25日は1部屋だけ空いていて26
日は満室と言われたため、5ヵ月も前でまだ早いのにと驚きました。しかし、せっか
く紹介していただいたのにその宿に泊まらないのも失礼と考え、すぐに1部屋予約し、
近隣の良い旅館を紹介してほしいと依頼すると、旅館雪国を紹介されました。すぐ
に旅館雪国に電話すると、25日に4人分(2室)、26日に全員分(3室)予約できました。
ところが、27日は全員揃った部屋数(3室)は確保できないと言われましたので、2回
も分宿するのは好ましくないと考え、他の3日間とは形態の異なるペンションを予約
しました。一連の予約作業を通じ、利尻島はコストパフォーマンスに優れた宿は相当

早い時期でないと予約できないと思い知りました。なお、利尻島の鴛泊(オシドマリ)地区に宿泊する場合、荷物は前日の宿のスタッフが次の宿に届けてくれるシステムになっているため、荷物の移動について不自由は感じませんでした。男性は4泊とも異なる宿に、女性は3カ所の宿に泊まることになり、宿に慣れる労力は必要でしたが、参加された方は同じような地域でいろいろな宿に宿泊できるため、変化があつて良かったようです。

[7月25日(木)・利尻島に到着]

7月25日、利尻島に到着した時は、利尻山の上半分は雲に覆われていました。なかなか頂上が姿を現すことが少ない山と聞いていただけにやはりこのような感じで登るのかと思いましたが、一方では翌日と翌々日の天気は良くなる予報でしたので、予報通りになることを期待していました。

利尻島に到着してまず思ったことは、「涼しい」の一言です。札幌と比べても5℃程度低い20℃余りでした。当日は男性と女性が別の宿に泊まりました。宿に着いた後は、男性・女性とも別行動で翌日の行動食や飲料水を購入するため鴛泊の街を散策し、女性4人は鴛泊の街から海に突き出たペシ岬(92m)に登られました。今回の例会で、女性は3つの宿に宿泊し、それぞれ2名ずつのペアの部屋だったため、宿ごとに同室のメンバーを代え、結果として総当たりの組み合わせとなりました。

[7月26日(金)・利尻山登山]

翌26日、両方の宿から午前4:45頃に出発し、それぞれの宿の自動車で登山口まで送っていただき、5:00に登山を開始しました。登山口では登山靴の底を洗う水場が設置されていて、外来の植物を利尻山に持ち込まないように環境整備されていました。

利尻山・鴛泊登山コースは、登山口から頂上まで、約1,500mをほぼ一本調子で登ります。登山口を出発後すぐ、コースタイムで15分のところに名水百選の「甘露泉水」の湧き水があり、女性の多くは喉を潤していました。

利尻山の森林限界は、ガイドブックやWEBサイトによって異なり、500m~1,200mと大幅な開きがあります。何が正しいのかわからないという状態で現地に行ったのですが、頭上を覆うほどに伸びていない樹木が始まるのが700m~800m程度の標高で、この状態で朝日や夕日のように横からの直射日光はただらにしか当たらない状態となります。そんな状態が長く続き、第二見晴台のある1,100m付近で周辺の樹木から頭が出る状態に移行します。歩いていて、皆さんの上半身が出て写真がきれいに撮れるのが、避難小屋がある1,200mを越えたあたりです。つまり、長い距離をかけて幅広い標高を移動する間に、少しずつ樹木の高さが低くなっていきます。

長官山(1,213m)まで登ってくると、それまで見えていなかった利尻山の頂上が見えます。当日の朝は利尻山の上の方に雲がかかっている状態でしたが、天気予報どおり次第に晴れてきました。ただ、ガスがかかることもたまにあり、長官山では少し前まで頂上が見えていたのに再び見えなくなり、今後ずっとガスがかかるのではと不安になる一幕もありました。

長官山から利尻山避難小屋を経由して、九合目までやってきました。ところが、標高はまだ1,400m。頂上の1,718mまで300m余りあります。利尻山はどうも”合目”の付け方がいびつなようです。おまけに、「ここからが正念場」の表示があり、まだまだ先は長いという感じがしました。実際、等高線はここから密になります。”九合目”という言葉に安心してはいけなさと感じました。長官山を過ぎると、ずっと利尻山が

正面に見えます。高山植物が群生するお花畑も周囲に見えるところも多く、素晴らしい景色を楽しみながら登っていきました。高山植物は6月が最盛期と聞いていましたが、高度が高いため、7月下旬の方が咲き誇っているのかも知れません。

利尻山を登っていて、ちょっとした展望所に立ったり後ろを振り返ると、よくペシ岬が見えました。利尻島で私たちが宿泊した鴛泊の市街地から海に突き出た高台で、独特な姿が目を引きまします。ペシ岬が次第に小さくなっていくのが面白くもあり楽しみでもありました。女性の皆さんはペシ岬に昨日登られて、展望が良かったと言っておられたので、男性2人も翌日登ることに決めました。また、ペシ岬が見える方向には、翌日行くことになる、姫沼が見えていました。登山道を進んでいくと見える角度が変わり、利尻島で鴛泊と並んで大きな沓形の街も見えました。

九合目～頂上間は、傾斜は急でしたがほとんどの区間で階段や、円形の筒に土砂を入れそれを階段状に配置したものがあり、よく整備されていました。ただ、一部の区間でザレ場があり、また段差の大きい岩場があったので、慎重に歩く必要がありました。

ついにやってきました。利尻山頂上！ 周りを海に囲まれた独立峰の頂上でしかも快晴です。周囲に遮るもののない360°の眺望が得られます。利尻山頂上では、利尻山の周囲の裾野や麓のわずかな平野部、それに続く海岸線や青い海はもちろんのこと、北北西方面に位置する利尻空港とその先の礼文島や、北方面に位置する鴛泊市街地とその先に突き出たペシ岬、利尻水道を挟んで北海道本島や、少し霞んでいましたが稚内市街・野寒布岬まで眺めることができました。まさに絶景です。

利尻山の頂上には、大山神社の祠が設置してあり、それを背景に集合写真を撮影しました。また、大山神社の祠を背景にした写真は逆光だったため、180°反対側の北海道本土側の集合写真も撮影しました。

利尻山頂上で約40分休憩した後、下山を開始しました。利尻山は頂上～九合目間の傾斜が急で、整備されている期間が多いとはいえ岩場やザレ場があり気の抜けない区間です。九合目に到着すると、あとは殆どの区間でハイキングコースといっても良いほどの歩きやすい行程ということを感じていたので、気持ちに余裕が出てきました。

第二見晴台～第一見晴台間だったと思うのですが、登山道の右側に少しスペースがあり、男性が一人座っていました。なんとなく顔を向けると、頂上で何かの縁で挨拶を交わした人でした。「休憩ですか。」と尋ねると、「シャリバテです。」との答え。「柿の種をあげましょうか。」と尋ねると、「柿の種は持っています。喉が渴いて食べられません。」とのこと。「水をあげましょう。」と言うと、水100ccほどが残った容量500ccのペットボトルを差し出してきました。口を付けていないペットボトルの水を400ccほど足すと大変ありがたいそうにしていました。近くにいたNさんが、コップに移して飲んだため直接口をつけていない残ったポカリスエットを差し出すとこちらもお礼を述べて受け取りました。シャリバテ+水不足です。私たちも先を急ぐので、軽く一礼してその場を立ち去りました。ある程度の距離を歩いてから、あの対応で良かったのかと疑問と後悔が湧いてきました。もう少し水をあげたら良かったのではないかと、名前と電話番号や宿泊先を確認して、電波の通じる場所で宿舎に電話をかけたら良かったのだろうか、等々。ただ私たちも遅れ気味だったので時間の余裕はありませんでした。気付いたときは引き返すには無理なほどの距離を歩いていました。善良な第三者としての最低限の責務は果たしたと思いますが、気になる出来事でした。それと、水は余裕のある量を携行する必要があると強く感じました。特に今回のように途中で

水の補給のできない山行では。

利尻山に限らず北海道の山は、登山道にトイレはなく、携帯トイレを持参して、途中の携帯トイレブース(利尻山・鴛泊コースでは3カ所)で用を足し、使用済みの携帯トイレを携行しながら山行を続け、下山時に登山口に設置してある携帯トイレ回収ボックスに捨てることとなります。私は汗かきなのが功を奏したのか、途中でトイレを使う必要はありませんでした。

当日の宿泊は、男性・女性とも同じ旅館で、女性は昨日から引き続き同じ旅館でした。前日、女性の話の伺うと魚介類が豊富な大変立派な食事だったということで、当日は2泊目で肉料理がメインでした。

少し遅い時間の下山となりましたが、宿の計らいで、本来の夕食の最終の提供開始時刻より10分遅い時刻に夕食を提供していただきました。また、夕食の前にシャワーを使ってよいとの配慮もありがたかったです。更に、翌朝のことですが、無料のコーヒーをフロント横に置いて自由に飲めるようにしてあったことも良いサービスと思います。

[7月27日(土)・利尻島観光]

翌日も天候は晴れ。既に利尻山に晴天で登っているだけに心に余裕を持って観光できました。利尻島を一周する定期観光バスが良いのではと思い乗車したのですが、これが予想以上にヒットでした。天気が良かったこともあり、雲のかかっている利尻山をぐるり360°から眺められたのが良かったことに加え、ガイドさんから利尻島の生活や現在の状況、更に利尻山のいろいろな角度からの眺望について、興味深い解説があり、今まで殆ど知らなかった利尻島について親しみを感じました。

定期観光バスに乗り込んだフェリーターミナルでは19°Cの温度が表示されていました。午前9時とはいえ、やはり涼しいです。定期観光バスが最初に向かったのは、標高約180mに位置する姫沼でした。ここは、以前にヒメマスを放流していたことから名付けられたそうです。利尻島には水力発電が1基あり、発電用の水路(パイプ)は姫沼から出ています。麓にある水力発電装置と水路(パイプ)は、あとで車窓見学しました。私たちは、姫沼の外周を約20分かけて散策しました。

次に定期観光バスが向かったのは、オタトマリ沼。島南部にある利尻島最大の湖沼です。一周する道もあるのですが、草が茂っているなど道が良くないとガイドさんから聞いていたのと、姫沼を一周した直後だったので、周回する人はいなかったように思います。ここでは私たちのうち4名が、バニラ、ハマナス、熊笹茶から選ぶ二種混合のソフトクリームを食べておられました。私はよく知らないのですが、ガイドさんの話によれば、北海道銘菓の白い恋人のパッケージに、オタトマリ沼から見た利尻山が描かれているそうです。

定期観光バスの最後の下車観光地は仙法志御崎公園でした。ここは島のほぼ最南端にあります。島の周囲を回っているうち、利尻山の特に上部が姿を変えていき、私たちの登ったなめらかな登山ルートと異なり、ギザギザの岩が目立つラインも目にすることができました。登山には適していない斜面です。仙法寺御崎公園には、傷ついたゴマフアザラシが1頭保護されて、水槽の中を泳いでいました。

また、仙法志御崎公園からは利尻山の稜線の左方向が海につながっているところを見ることができました。Wさんは、利尻山の頂上から海に至る全景をパノラマ写真で撮影されていました。

定期観光バスを終点の鴛泊港フェリーターミナルで下車し、向かいの店で全員、昼食にラーメンをいただきました。入った店でウニ丼が 10,000 円との定価表が張り出されているのを見つけました。誰が注文するのだろうかと食事中興味深く見ていましたら、配膳コーナーからウニを一杯乗せたウニ丼が出ていくではありませんか。行先は 4 人程度が座っていたテーブル。シェアするようで、上手な食べ方と思いました。

昼食後、男性 2 人はペシ岬に登り、その後 6 月に利尻山に登られた S さんのアドバイスに従い、鴛泊の街の南寄りにある高山植物園に行き、宿舎に向かいました。鴛泊の街の中心部から少し離れたところを歩いていくと、道沿いに空き家となっているところが散見されました。ご多分に漏れず過疎化が進んでいることが見てとれます。高山植物園は時季的に少し遅かったようです。一方、高山植物園から宿舎に向かう途中少し寄り道をすると、宿舎の近くの通りや近傍の民家に鮮やかな青色のアジサイが満開の花を咲かせていました。一帯が統一された色彩で見事でした。本州に比べ 1 か月余り遅い開花時期です。

男性 2 人が散策をしている間に、女性陣はフェリーターミナルの喫茶店で、翌日の礼文島観光のスケジュールを練っておられました。当初、島の南側の桃岩トレッキングコースか、北端のスコトン岬コースしか行けないと考えられましたが、Y さんを中心に、季節運行のシャトルバスと、K さんが最初に提唱された定期観光バスに乗車することで、島の南北両方の名所に行くプランを立てられました。

当日の夜はペンションでした。ここで女性の方は初めて生ウニを食べることができました。ただ、夕食時間が 16:45 の一択で、それより遅い時間を希望しましたが受け付けてもらえませんでした。登山予定日の宿泊場所については、予約時に食事開始時刻を確認することも必要と思いました。

[7 月 28 日(日)・礼文島トレッキング&礼文島観光]

翌 28 日は、前日 Y さんが中心となって考えられたプランに基づいて行動しました。フェリーで礼文島の香深港に到着すると、宿までの荷物の運搬のために迎えに来られた宿のご主人が、映画「北のカナリアたち」の舞台となった、北のカナリアパークまで、送って行ってくれるというので、想定外のサービスに大喜びしました。お陰で元のシャトルバス乗車プランでは行けなかった場所に行けることになりました。

北のカナリアパークは、麗端小学校岬分校として実際に撮影で使用した校舎がメインの施設で、私たちは校舎の周囲の敷地を散策したり、校舎内の展示物を見たりして楽しい時間を過ごしました。校舎内の教室では、教壇の位置に設置された人影に、映画の主人公の吉永小百合の映像が後方からプロジェクターで投影されていて、その映像と共に皆さんの写真を撮影しました。ただ残念なことに、光が反射して吉永小百合の映像は一部しか撮影できませんでした。

北のカナリアパークを出発後、トレッキング用に整備されている桃岩展望台コースを歩きました。高山植物が海岸線まで咲いている草原を眺めながら歩くのはとても気持ち良かったです。桃岩展望台コースは利尻山を海越しに遠望できるのが魅力の一つです。当日は利尻山の上 2/3 はガスで隠れていましたが、既に 2 日間利尻山の頂上から麓までの全景を見てきたので利尻山がガスに隠れていることは問題なく、海越しに利尻島を見れたのは良かったです。桃岩展望台コースの見どころの一つの桃岩展望台では、桃の形をしているので名付けられた「桃岩」を間近に見ることができます。私たちはここで休憩し、集合写真を撮影しました。

桃岩展望台コースを香深港フェリーターミナルまで歩いた後、礼文島を巡る定期観光バスに乗車しました。途中、礼文島で最も海が映えると言われている澄海（スカイ）岬を見学して、礼文島の最北端のスコトン岬に到着しました。観光バスガイドさんの説明によると、ここは以前日本の最北限の地とされていたようですが、その後の測量結果により、宗谷岬が日本の最北限であることがわかりました。しかし観光用に、現在でも最北限の地という標識が立っているとのこと。スコトン岬の北側にはトド島が見えました。スコトン岬では、女性3人は岬名物の「昆布アイスクリーム」を買いに行かれましたが、残念ながら売り切れだったそうです。

礼文島は花の島と呼ばれることが多いようですが、霧がかかることが多く、ミストが高山植物（花）を育むという説明もありました。そういえば、利尻山に登った7月26日も、利尻島は晴れていましたが、礼文島は午前中から午後の始めにかけてほぼ全域に低い雲がかかっていました。多分現地ではミストが舞っている状態だったのでしょう。香深港フェリーターミナルで定期観光バスを降りると、ほんとに細かい雨が降っていました。「トレッキング中や観光中に降らなくて良かったね。」と言いながら宿に向かいました。

4日目、28日の宿は、料理が今までで最もよく、ご主人をはじめスタッフの対応がとびきり優れていました。主にWさんが、興味をひかれたのか宿の人に話しかけ、宿の特徴を聞き出されました。お父さんが漁師をしていて、その後を受け継いだお兄さんが現役の漁師ということで、新鮮な魚介類が手に入りやすく、私たちは本日とれたての生ウニを今回の例会のなかで初めて味わいました。ウニは最近漁獲量が減っているようで、なかなか手に入らなく、入手できてもかなり高額であることが、現地のいろいろな人の話で分かってきました。食堂には、魚の写真と名称や説明を記載したポスターが貼ってありました。宿の人が、食卓に並んでいる魚の名前を私たちに伝える際、私たちが「どのような魚ですか。」と尋ねると、ポスターの魚を指して説明してくれます。例えば「ソイ」という魚など、私たちが知らない魚もあり、わかりやすく説明するための工夫がされていると思いました。

当日は当例会最後の夜ということで、男性の部屋に全員が集まり2次会に盛り上がりました。

[7月29日(月)・帰阪&お礼]

翌29日は、大阪への移動日でした。フェリーで利尻島・鴛泊港に行き、利尻空港から新千歳空港を経由して大阪に向かいました。新千歳空港からは、それぞれで予約した便に搭乗することになるうえ空港でお土産を買うため、挨拶する時間にゆとりがないことが予想されたため、利尻空港で解散としました。

参加していただいた皆さん、長い例会お疲れさまでした。今回の例会では、全景が見える機会が少ない利尻山にほぼ快晴の状態に登れたことは大変良かったと思います。また、翌日の利尻島観光でも利尻山がよく見え、例会4日目の礼文島トレッキング&観光も充実して、良い観光ができたと思っています。

良い例会と思えるのも、皆さんが互いに協力し合っていたり、良いアイデアを出していただいたり、積極的に動いていただいた賜物と思っています。ありがとうございました。利尻・礼文例会を、皆さんの楽しい思い出の一つに加えていただければ幸いです。